

4-1 都市づくりの基本理念と目標

1 都市づくりの基本理念

『高岡市都市計画マスタープラン』で定める「将来都市像」は、富山県西部の中心都市である高岡市に暮らし、働き、学び、憩う人々全てにとって共有できる”理想とする都市のあるべき姿”となるものであり、多彩な産業と薫り高い文化などこれまで蓄積してきた有形・無形の豊かな資源を最大限に生かし、少子・高齢化、国際化、情報化、技術革新などの新しい潮流に的確に対応したまちづくりの目標を示すものでなければならない。

また、まちづくり情報を市民に発信し、対話・意見交換などにより、市民の参加と協働による都市づくりを進める。

高岡市における「将来都市像」は、「高岡市総合計画」において定められており、本市のまちづくりの基本目標として様々な施策が展開されている。

このため、『高岡市都市計画マスタープラン』における「将来都市像」については、「高岡市総合計画基本構想」に掲げられた「将来都市像」を基本的な理念として、以下の通り定めるものとする。

●将来都市像

「生き生き市民都市 高岡」

2 都市づくりの目標

●都市づくりの目標

将来都市像を達成するため、以下に示す4つの目標に基づき都市づくりを進めるものとする。

◇ 賑わいと活気のある都市づくり

- ・ JR高岡駅を中心とする中心市街地の活性化を図るとともに、新幹線新高岡駅（仮称）周辺と一体となった、賑わいと魅力ある都市の顔づくりを目指す。
- ・ 成長産業や新事業の創出や育成など、産業を支援する基盤整備に努めるとともに、伝統産業の維持、継承に努め、ものづくりの都市として活気のある都市づくりを目指す。

◇ 交通利便性の高い交流の都市づくり

- ・ 高速交通、道路、公共交通、港湾などの都市基盤整備を図り、県西部の中心都市として広域交流、観光の拠点となる都市づくりを目指す。

◇ 自然・歴史・文化を活かした都市づくり

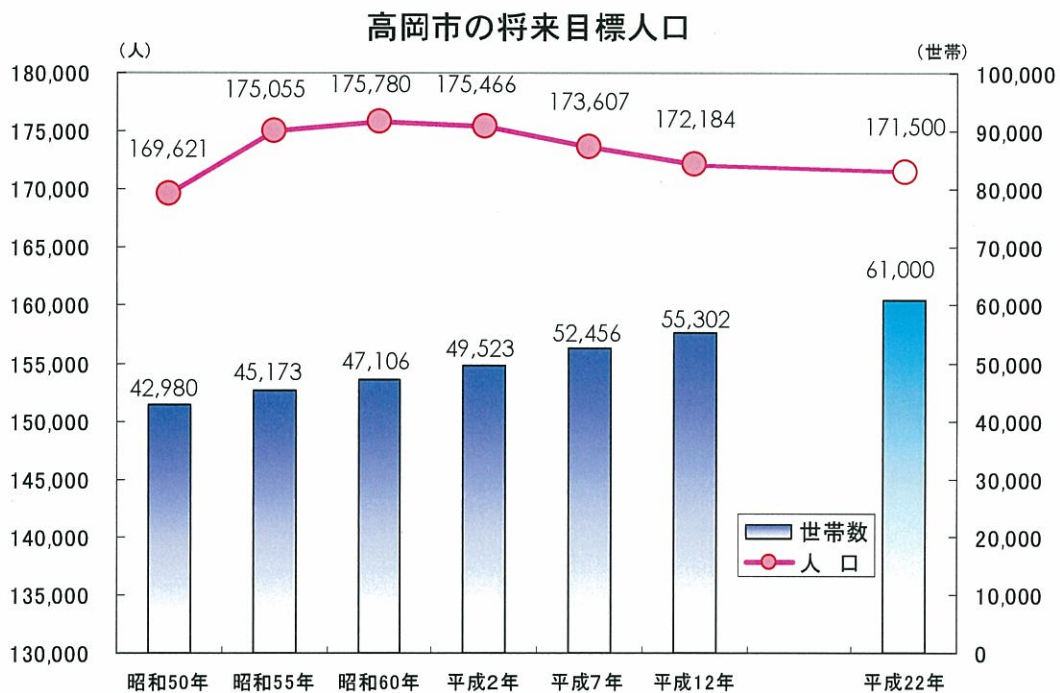
- ・二上山や雨晴海岸などの恵まれた自然環境の維持、保全に努めるとともに、歴史と伝統が調和のとれた風格のある都市づくりを目指す。

◇ 安全で安心して快適に暮らせる都市づくり

- ・まちなかに水と緑の演出をするなどゆとりと潤いのある居住環境の整備に努め、全ての市民が快適で利便性に富んだ生活ができる都市づくりを目指す。
- ・災害に強い都市づくりを進めるとともに、歩行環境の整備や雪対策など施設のバリアフリー化や福祉・医療サービスの充実など、ひとにやさしい都市づくりを目指す。

● 目標人口

高岡市都市計画マスタープランの目標人口は、総合計画で定めている目標人口と整合を図り、平成22年の目標人口は171,500人と設定する。



(各年次国勢調査。平成22年は市総合計画の値)

1 将来都市構造

将来都市構造は、都市形成ゾーン、田園環境ゾーン、自然環境ゾーンで構成し、自然環境、農業環境及び居住環境の維持保全に配慮するとともに、北陸新幹線や能越自動車道などの高速交通体系を有効活用し、円滑で効率的な都市活動が確保されるよう適正に配置する。

J R 高岡駅周辺から新幹線新高岡駅（仮称）周辺は、高岡市の玄関口として、また県西部の中心地区として、商業業務などの機能の拡充や、文化・交流機能など新たな機能の導入を図る「都心拠点」とする。

また、能越自動車道高岡 I C、高岡北 I C 周辺や伏木外港周辺は生産・流通機能等の拡充を図る「産業拠点」とする。

（1）都市形成ゾーン

都市形成ゾーンは、住宅、商業・業務、工業の各ゾーンで構成し、快適な市民生活や効率的な産業経済活動を確保するため、既存都市機能の集積状況を勘案し、計画的な整備・開発による適正な土地利用転換等により土地利用の再編を図り、無秩序な市街地の開発を抑制し、まとまりのあるコンパクトな市街地形成を図るものとする。

都市形成ゾーン内の土地利用については、現状の土地利用等を踏まえ、商業・業務ゾーンを中心とし、周辺部に住宅ゾーン、工業ゾーンを配置する同心円状の配置を基本とする。

都市形成ゾーンの拡がりについては、新幹線新高岡駅（仮称）周辺や能越自動車道 I C 周辺、また、既成市街地の周辺部等において、周辺の土地利用との整合を図り、まとまりのある規模・形状で確保する。

① 住宅ゾーン

住宅ゾーンは、商業・業務ゾーン周辺部に配置し、都心居住需要への対応、土地区画整理事業や地区計画制度等の導入により、ゆとりと潤いのある良好な居住環境の形成を図る。

② 商業・業務ゾーン

商業・業務ゾーンは、J R 高岡駅周辺及び新幹線新高岡駅（仮称）周辺に配置するとともに、駅南地区については、既存業務の拡大や新たな業務立地に対応した新たな業務地の形成を図る。

また、中心商業業務地の周辺や伏木、戸出、中田など各地区の中心等に商業ゾーンを配置し、地域住民の生活に対応した商業・サービスの充実を図る。

③ 工業ゾーン

工業ゾーンは、伏木地区や既存工業地に配置し、土地利用の再編や道路等の基盤施設の整備拡充、流通機能の向上等により、都市の産業基盤を担うゾーンの形成を図る。

(2) 田園環境ゾーン

高岡環状南線の南側や小矢部川左岸などに広がる農地については、優良農地として確保し、田園環境の維持・保全に努める。

また、田園集落においては、自然環境に配慮した緑豊かで潤いのある居住環境の保全に努めるとともに、無秩序な市街化を抑制し、都市と農村が調和した土地利用を図る。

(3) 自然環境ゾーン

自然は、市民が共有する貴重な財産として将来にわたり保全・活用し、快適な都市生活を営むため、都市と自然環境との調和と共生に努める。

① 自然活用ゾーン

二上山を含む能登半島国定公園及び西山丘陵地などについては、本市の重要な自然緑地空間であり、今後とも環境の保全に努めるとともに、市民の憩いの場として活用を図る。

② 河川活用ゾーン

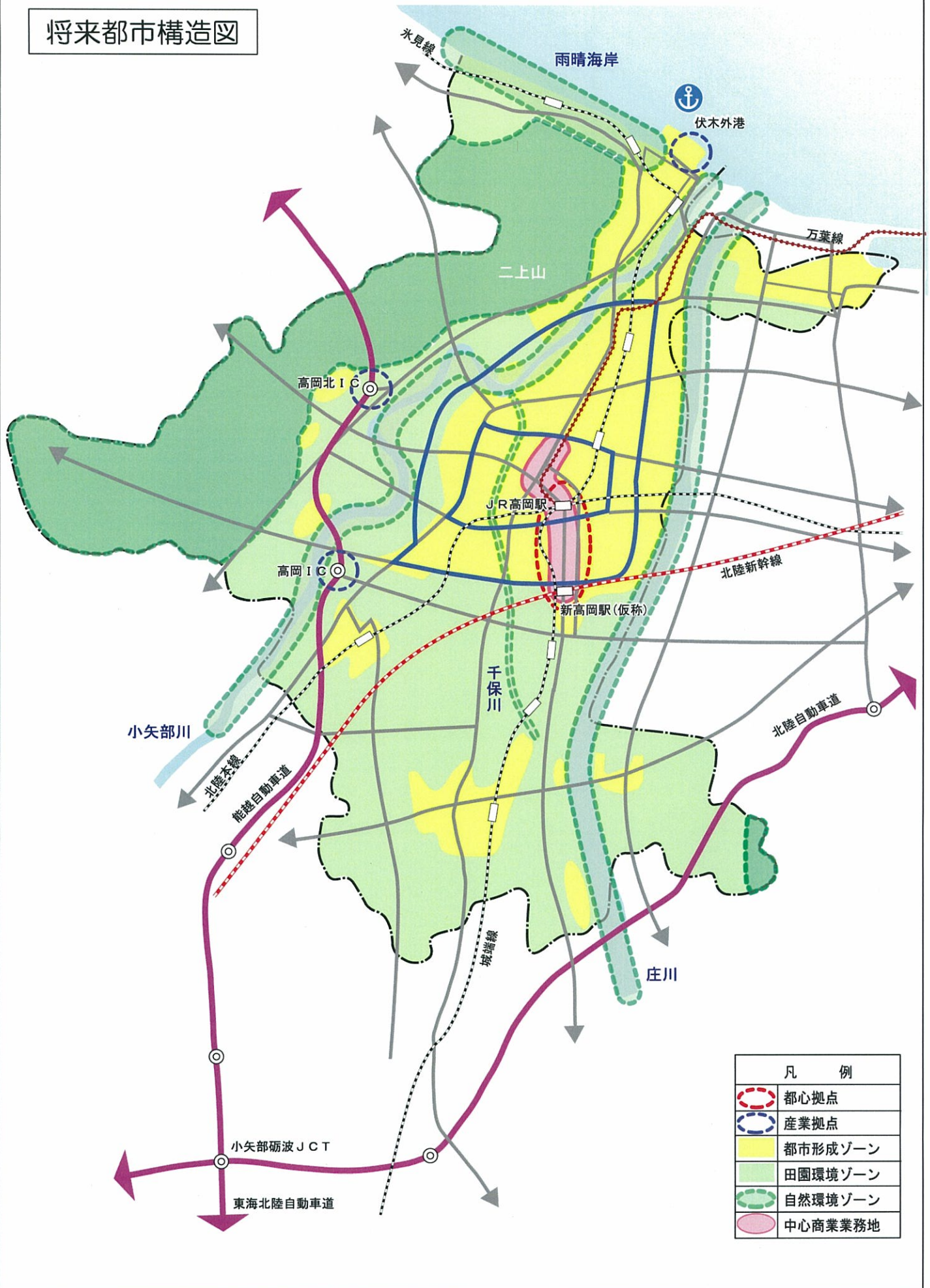
市内を流れる小矢部川や庄川、千保川などは、市民に潤いを与える場であり、自然環境との調和に努めながら、親水空間の創造を図る。

③ 海岸活用ゾーン

雨晴海岸に代表される海岸線は、本市の誇れる眺望景観を構成しており、今後とも景観の維持を図るとともに、市民の憩いの場として活用を図る。



将来都市構造図



凡 例	
	都心拠点
	産業拠点
	都市形成ゾーン
	田園環境ゾーン
	自然環境ゾーン
	中心商業業務地